

**2013日本学生スプリントトライアスロン選手権 兼
チームタイムトライアル大会
競技規則(ローカルルール)と主要注意
出場選手は全員事前に熟読して下さい**

●はじめに

本大会は、日本トライアスロン連合（JTU）競技規則に加え「日本学生スプリントトライアスロン選手権兼トライアスロンチームタイムトライアル大会ローカルルール」を設定して競技を行う。なお、特別に指定された項目以外はいずれのカテゴリーにも適用するものとする。

●競技規則・備品について

- ① スイム競技においてウェットスーツの着用を義務付ける。
- ② バイクはロードレーサーでのみ出場を認める。ロードレーサーの定義に関してはJTU競技規則を参照。
- ③ 周回チェックのため、サイクルメーターの装着を義務付ける。
- ④ ナンバリングの妨げになるようなペインティング・タトゥーシールを禁止する。
- ⑤ ナンバリング前にナンバリングの場所(両腕、両脚)には、ホットバルム、ワセリン、日焼け止めクリームなどを塗らないこと。またナンバリング後に塗る場合もナンバリングが消えないように塗ること。
- ⑥ レースナンバーは必ず審判が視認できるように装着すること。レースナンバーの装着に不備があるとみなした選手にはペナルティーや失格等の処分を下すことがある。
- ⑦ ユニフォームにつけたレースナンバーが、外れるまたは破れた場合、審判・係員が確認できるように提示するか、競技中に付け直せば、競技を続けてもよい。
- ⑧ バーエンドのキャップが外れている場合、レースへの参加は認められない。ただし、テープ等でバーエンドをふさぐ処置をした場合は、エンドキャップについては適格とする。
- ⑨ 表面および内部に割れがあるヘルメットでは出場できない。ヘルメットのチェックは各自で行い、問題のあったヘルメットはレース、練習中問わず使用しないこと。
- ⑩ 個人スプリント選手権の部およびチームTTの部では、通常のドロップバーハンドルのみ使用可能とする。DHバー（アタッチメントバー、肘当てパット含む）の装着および使用を禁止する。
- ⑪ 個人オープンの部においてはDHバーの装着を許可する。
- ⑫ 個人スプリント選手権の部、チームT.T選手権の部、チームT.Tオープンの部では
ディスクホイールの使用を認めない。個人オープンの部のみ、ディスクホイールの使用を認める。
全ての部門において、使用できる前輪はスポーク構造をしているもののみ認める。
- ⑬ トランジション開放の際、バイクやその他競技備品の回収には選手本人があたり、レースナンバーもしくはボディマーキングを係員に提示すること。
- ⑭ 救護にかかっているなどのやむを得ない理由で競技備品の回収ができない選手については、当該選手と同じ大学・チームの者に回収の代理を認める。
又、その際は当該選手のレースナンバーなどを代理人は持参すること。
- ⑮ レースナンバーは前後2枚の着用を義務づける。バイクシールはバイクの右側に取り付けること。
- ⑯ フロントファスナーのウェアは使用禁止とする。

●伝達事項の告知について

大会期間中のローカルルールやコース、時間の変更等の伝達事項は、大会本部前に掲示する。大会本部周辺に放送で呼び掛けることもあるので、選手は各

人の責任で伝達事項について注意を払うこと。

●ペナルティーについて

タイムペナルティー(TP)ルールはその時のコース状況により、審判の裁量により適用される。競技中に適用を受けなかった場合でも違反行為が認められた場合はレース後にペナルティーを受けることがある。

●主要注意

- ①バイクコースの下見は大会前日までとし、その際はヘルメットの着用を義務づける。
- ②ナンバリングの場所にワセリン・ホットバalm・日焼け止めクリーム等を塗らないこと。
- ③競技者以外の者が競技者に競技中にスペアホイールやドリンク（エイドステーションのものを除く）等を受け渡すなどの援助行為を禁止とする。援助行為が認められた場合、選手を失格の対象とする。
- ④競技中においても交通ルールを厳守すること。
- ⑤リタイアする場合には、必ず本人が大会本部もしくは審判員に申し出ること。
- ⑥校旗やのぼりをフィニッシュゲートに取り付けることはできない。ただし、フィニッシュ時のフラッグの受け渡しは許可する。

●スイム競技

- ①スイムエントリー時間を厳守すること。スイムエントリーとはスイムスタート地点でアングルバンドを受け取り、計測エリアを越えるまでを指す。これに遅れた選手の競技への参加は認めない。
- ②競技中に救助を必要とする場合は片手を頭の上で振り、声を出して救助を求めること。
但し、一度救助された競技者は競技を再開することはできない。

●トランジション

- ①競技中以外でトランジションエリアへの出入りの際は、レースナンバーとナンバリングを競技役員に明示すること。
- ②ヘルメットのストラップはラックからバイクを取り出す前にしっかり締めること。バイクフィニッシュ後はバイクをラックに掛けた後にストラップを外すこと。
- ③バイクをラックに掛けるときは、ラックナンバーが見える側にハンドルがくるように、サドルを掛けることとし、本人が最後までラックにかけなければならない。
- ④競技用具は通路や他の選手の妨げとならないように置くこと。マーシャルは選手の公正な競技を確保する目的で、これを移動させることがある。
- ⑤足が指定された「乗車ライン」を超えてから乗車し、また、指定された「降車ライン」を超えるまでに降車しなければならない。

●バイク競技

- ①スプリント選手権の部ではドラフティング走行を許可する。また、最後尾の競技者は、先頭と基準距離以下に接近した場合、その時点で競技停止(DNF)となり、マーシャル

- の指示に従ってコースアウトする。
- ・ スプリントオープンの部では、ドラフティング走行・集団走行・伴走は禁止する。
- ③ チームTTの部では、チーム内でのドラフティング走行は許可するが、他チームとのドラフティング走行は禁止する。
- ・ 警告を受けた選手は速やかに審判員の指示に従うこと。
 - ・ キープレフトを順守すること。
- ⑥ スペアホイールの使用はレースナンバーを明記して指定の場所に置いたもの
に限り、
これを認める。

●ラン競技

- ① キープレフトを順守すること
- ② フィニッシュではウェアのチャックを締め、サングラスを外し、観客にアピールすることを推奨する。
- ③ スプリント選手権・スプリントオープンの部では、意図的な同着は認めない。
- ④ 一度フィニッシュした選手が再度コース内に入る事は出来ない。
- ⑤ 応援関係者および選手の、競技者への伴走を禁止する。

■メディア規制について

- ① 大会当日において、大会に関係するいかなる写真・ビデオなどの取材・撮影の際には、必ず大会本部の許可を必要とする。
- ② 許可には身分証明と連絡先の提示を要する。これを提示しない者には、大会に関係する一切の取材・撮影活動を認めない。
- ③ 大会側から取材・撮影に関するデータの閲覧を要求し、大会側がこれを不適切であると判断した場合、データの削除を要求することがあるが、撮影者はこれに応じなければならない

■その他

- ① 本大会は、競技者以外の者が競技者に対して順位などの情報を与えることを認める。
- ② 熱中症には十分に注意し、大会前日に水分を多めにとるなど事前に対策をとっておくこと。競技中、審判員及びドクターが危険と判断した場合は競技を中止させることがある。
- ③ 観客、プレス、主催者関係者、地域住民に注目されていることを認識し、良識ある行動を心がけること。暴言を吐くなどスポーツマンシップに相応しくない行動が見られた場合、ペナルティーが科されることがある。

その他の規則については、J T U競技規則に準ずるものとする。

日本学生トライアスロン連合審判委員会